

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470300860		
法人名	(有)日本サポート・リンク		
事業所名	色えんぴつ・鈴鹿		
所在地	三重県鈴鹿市下大久保町2290番地の12		
自己評価作成日	令和元年8月16日	評価結果市町提出日	令和元年10月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;Ji_gvosyoCd=2470300860-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;Ji_gvosyoCd=2470300860-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 元年 9月 2日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在平均介護度は2.3ではあるが、約半数の5名の方が要介護1であり外出がしやすいせいか、家族との外出の機会も増えている。また施設内行事や外出行事、日々の取り組みに於いても楽しめるような計画を立てている。また職員の移動もなく、むらのないサービスが提供できている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1ユニットの平屋建てで、事業所前の広い敷地にはさつまいも畑・花畑を囲む様に散歩道が作られ、天候や気候の良い日々の散歩コースとして利用している。また事業所周りの農道での散歩コースでは、地域の方々と挨拶をして交流し、保育園近くを通る時には園児との触れ合いが利用者の何よりも笑顔の源となり、生き甲斐ともなっている。特に利用者の能力を生かす工夫をし、食事の盛り付けや片づけ等、自分の役割を持つことで、生活に張りを見つけ生き々と生活している姿が見られる。また日々利用者に寄り添い、「あなた人らしくいつまでも」穏やかな生活が、送れるように支援している事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を意識して、その人らしい生活が送れるような声掛けや環境づくりに努めている。	利用者の良い事も悪い事も「あなたらしさ」と認めたいと、理念に立ち戻り支援内容を全職員で話し合い確認している。笑ってもらうには、あなたらしさを理解していないと笑ってもらえないと、その人らしい暮らしを支える支援の実践に努めている。	常に立ち戻る原点を言語化したものが理念であり立場や経験に関らず事業所で働く職員一人ひとりが理念を理解し利用者に関する時に、理念を意識して取り組むことが大切である。全職員で理念の見える化を考慮し、より一層の理念の反映を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域と交流出来る場は少ないが、職員は近隣の方には積極的に挨拶や話かけを心掛けている。	自治会に加入していないが、自治会長や役員とは地域の夏祭り等を通じて交流はある。祭りにテント内に利用者の貼り絵等の作品を展示し地域の方々の目を引いた。近隣とのつながりが薄い地域で「何かあったらすぐに助け合える関係」を築く為、職員は積極的に交流関係を築こうとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	困りごとがあればいつでも話しに来てもらう場所として利用してもらえるように地域には発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度偶数月の第3または第4土曜日に開催しており定着してきている。さまざまな意見をもらい必要な事は実行している。	偶数月の第3土曜日に開催し、事業所の現状報告やその時期の課題(インフルエンザ等)について活発に意見交換をしてサービス向上につなげている。「ケアの振り返り会議」で全職員で話し合いケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回介護相談員の訪問があり情報交換している。管理者は月1回は広域連合に出向いておりその時々必要な事を相談している。	鈴鹿市の「生き生きボランティア制度」で2名受け入れている。介護相談員の月1回の訪問を受け、最近元気にされ笑顔が見られると評価された。行政職員とは生活保護の依頼で意見交換し協力関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	概ね3ヶ月に1度、身体拘束等の適正化の対策を検討する委員会を開催してその時その時に応じた内容で話し合いや勉強の機会を持っている。	「身体拘束禁止マニュアル」を全職員が理解しており、玄関の施錠は現在行っていない。ヒアリング事例もあり「身体拘束適正化委員会」で話し合い再発防止に努めている。徘徊願望の強い利用者も、花畑の散策で納得し落ち着いた事例がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は最低でも1年に1回は虐待防止についての研修に参加しており研修報告書や伝達研修を行い共有している。日々の業務では虐待を見逃さないよう気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主に管理者が年1回研修に参加している。職員には報告書や伝達研修を行い知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約又は解約の際は了承が得られるよう十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会ノートや面会時に口頭で意見を聞いており実行できる事は取り入れている。また外部にも発信できるような環境をつくっている。	面会時に必ず声をかけて家族の要望や意見を聞き、事業所から利用者の状況を伝え交流を大切にしている。内容は面会ノートや業務日誌に記録し、全職員が共有し支援している。運営推進会議に家族の出席もあり、体重コントロールが出来て有り難いとの意見が出ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議が意見、提案を聞く機会になっており実行可能な事は実践している。またすぐに改善が必要な事は即実践している。	朝の申し送り時に情報交換や意見交換をし、月1回の職員会議で職員の意見を聞く機会を設けている。ハード面・ソフト面についての意見を出し、最近テレビを交換し利用者の喜ぶ言葉が聞けた。管理者は個別に意見を聞く時もあり、話しやすい雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員との面談が必要な場合は機会をつくり問題の解決を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己啓発を促すとともに年間3回の研修を目標にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	8月に事業所間での管理者会議の機会をはじめて設けた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が何に困っているか何を望んでいるかをききとりながら信頼関係が築けるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期はこまめに状態を電話で報告している。家族からの要望があれば可能な限りでの支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の希望や要望、本人に対する気持を良く聞くとともに、本人の状態や思いも聞いたうえで、本人や家族にとって良いと思われる事を最優先に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を一画的で、一方的ではなくその人その人に応じた支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の希望を聞き外出や外泊を自由に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	回想法DVDをレンタルした。出身地やこどもの頃の記憶を話したりしている。また外出の際に、以前の住まいの近くを通る事があり、その頃の思い出話を引き出している。	家族から聞いた生活歴や馴染みの関係を聞き取り、利用者の些細な昔話の発言も聞き取り、一人ひとりの馴染みの関係継続支援を心掛けている。家族の協力を得て墓参り、自宅に行く方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考慮してトラブルのないように食事やリビングの席の配慮したり、外出の組み合わせ等配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され他施設へ行かれた場合でも、状況に応じ必要な情報提供を常時している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限りで本人の意向に沿った生活が出来るよう支援している。	自分の気持ちをはっきりと発言する利用者が多い。寝たきりで困難の場合は、口の動き・表情や態度から意向を汲み取っている。一人ひとりをよく観察し思いや意向を把握し会議録に記入、全職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の関係者や家族から出来るだけ詳しい情報を聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の状態をみながらできる事は一緒に行ったり、曜日ごとのレクを催したりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の引き継ぎの時間や月1回の会議の場で意見交換をしている。その都度必要な事は見直している。	毎日の申し送り時に変化を共有し、家族とは面会時や担当者会議に出席依頼し意向を確認している。毎月の職員会議でカンファレンス、モニタリングをし3か月ごとに評価する。変化があれば、赤字で記録を追加している。担当者会議で関係者・主治医の意見で見直しがあればその都度見直し計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に記入して情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望があれば出来る範囲で希望に添えるよう支援していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源が少ない地域性でもあり交流する機会は少ない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1か月に1度かかりつけ医に定期受診している。	入居時に本人・家族の意向を確認し、在宅医療の医師が月2回の往診している。入居前のかかりつけ医受診は基本月1回の定期健診で健康管理をしている。バイタルリンク利用で、体調不良や些細な表情や変化を見逃さず早期発見に取り組み適切な医療に繋げている。月1回の歯科の往診・治療も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はないし訪問看護の利用もしていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の状態を関係者と相談しながら早期退院にむけて常に情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に終末期のあり方についての家族の意向を確認している。状態に変化が起きた場合はその都度、施設で出来る事を説明した上で、家族やかかりつけ医と相談しながら支援している。	入居時に「看取り指針」を基に看取りについて施設で出来る事と出来ない事をはっきりと説明している。重度化時はその都度家族を交えて主治医と相談しながら前向きに支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の防災訓練に参加してAEDの使用法の指導を受けた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に1度は避難訓練を実施している。訓練結果を運営会議の場で地域の方へ報告して話し合いを行っている。	様々な災害を想定して防災訓練をしている。地域の防災訓練に職員は、利用者と共に参加しAED実施を体験し防災意識を高めている。利用者も熱心に聞き入り煙体験もした。	前回の外部評価結果を検討し前向きに取り組まれているが、今後いつ起きかわからない災害に備え自分の役割を迅速に果たせ、いざという時に慌てず確実に避難誘導が出来る様に実践的な取り組みの再検討が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った声掛け、対応をしている。	トイレ誘導時や入浴介助時等、日々の生活支援時は一人ひとりのプライドを傷つける事の無いように支援している。また職員側で決めたことを強制せず複数の選択肢を提案し、利用者が自分で決める場面を作りその方に合った支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ずつゆっくりと話しを聞き本人の思いをくみ取れるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等おおまかな決まりはあるが、個々でしたい事をして過ごしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった洋服の準備、定期的な手足の爪切り、2ヶ月に1回ヘアカットに来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日のお祝い膳等本人様が食べたい物を提供している。ケーキではなくおはぎでお祝いした方もいた。	配食業者の料理を利用しているが、メニューによっては職員と利用者が一緒に手作り料理をしている。誕生日・敬老の日の特別メニューは利用者の楽しみであり、食事が一日の大切な活動の一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は毎食チェックし、食べれていない時は家族様に協力していただき喉ごしの良いゼリー等用意していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々にあった口腔セットを用意し、その人に合った口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を元にトイレ誘導を行いパット、リハパンの汚染を減らすよう努めている。	個々の排泄パターンを排泄チェック表で全職員が把握し、一人ひとりに合わせた介助をし、出来る限りトイレで排泄できるような支援に努めている。夜間のみ居室でポータブルを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつや飲みものに自然排便に効果があるものを使っている。排便回数も把握し下剤も使用する事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴となっているが入りたいかたや汚染等で臨機応変に対応している。また季節感のある入浴剤を使用してリラックス効果を高めている。	基本週3回の入浴であるが、日曜日以外に毎日湯を沸かして入浴希望者にはその都度提供している。しょうぶ湯・柚子湯で季節を味わい入浴を楽しみ、炭酸の入浴剤で健康に気を付けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	誰がいつ居室へ行くか把握し、居室内の室温管理に努めている。自由に居室へ行けるようになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬箱の前に服薬表が貼ってあるがすぐに確認できるよう薬のファイルも置いてあり個人別にまとめてある。また朝、昼、夕、眠前と色別にしてあり服薬も最後まで見届けるようしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵や計算、漢字の問題をリビングに置いておき誰でも好きな時に使う事ができるようになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩へ行きたいと言われれば散歩や庭へ出て日光浴等しているが気温によって行かない事もある。地域の盆踊り等に参加させていただいている。	庭に出て草花を見て楽しみ、桃・ビワの木々は季節を届けてくれている。四季折々の外出では、水族館に出かけ声を上げて喜び手を叩いて楽しんだり、花見で満開の菖蒲の中、笑顔で生き生きと外気浴を楽しんでいる。家族と共に外出する方もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時は個々の財布を持って行っている。欲しい物があれば職員と一緒にだが購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状に個々でメッセージを書いて出しているが本人自らの要望はない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温管理を徹底している。エアコンが当たる場所等把握し座る場所にも気を付けている。	キッチンと居間兼食堂は、対面式になっており、職員は利用者と会話しながら食事の準備や片づけが出来る。居間兼食堂からは、果樹の木々を植えた庭が見渡せ、窓を開ければ風通しが良く季節を感じる事が出来、事業所のシンボルの楠木は木陰を作っている。また、テレビを囲む様にゆったりとしたソファーが置かれくつろぐ利用者の姿が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーの位置や座る場所に工夫しながら過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前から使っているタンス等馴染みのものを持ってきていただいている。	自宅で使っていた生活用具を家族の協力で持ち込み自宅と同じ生活空間を思い出させ、利用者の個性があり居心地良く過ごせる部屋になっている居室が多い。比較的すっきりした部屋では、好きな時に休んだりくつろいだりしている。各居室には温湿度計を置き室温管理がされており、思い思いの利用者の姿がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の表札や終う場所に名前がかいてあり一目でわかるようにしており、片付けも一緒にできるようにしている。		